

心理学

| | | | |
|--------------|---------------------|--------|----------|
| 責任者・コーディネーター | 人間科学科心理学分野 藤澤 美穂 助教 | | |
| 担当講座・学科(分野) | 人間科学科心理学分野 | | |
| 担 当 教 員 | 藤澤 美穂 助教 | | |
| 対 象 学 年 | 1 | 区分・時間数 | 講義 21 時間 |
| 期 間 | 後期 | | |
| 単 位 数 | 1 単位 | | |

・学習方針（講義概要等）

心理学は、「こころ」を科学的にとらえる学問のひとつであり、人間を探求する学問である。人間のもつ「こころ」の動きを理解するため、知覚・行動・感情などを対象とした実験・調査等がおこなわれ、また観察等を通じた人間行動解明へのアプローチがなされる。テレビや雑誌等で日常的に目にする「心理テスト」は、心理学から得られた知見をわかりやすく抽出したものであるが、学問としての心理学においては、概念の定義、論理の整合性、科学的方法論等が重視され、より学術的で厳密な態度が求められる。

本科目においては、心理学の知見をもとに、「こころ」の動きが私たちの行動に及ぼす影響について、身近な例を通して理解することを目指す。

・一般目標（GIO）

心理学は、大学で初めて学ぶ学問である。そのため、まず心理学がどんな学問であるかを理解することが第一の目標となる。

また、現在の心理学においては、臨床心理学や健康心理学、コミュニティ心理学等の応用分野が特に注目されているが、基礎心理学（実験心理学、認知心理学等）の視点に留意することは非常に重要である。そのため、心理学という学問について、基礎・応用の両視野を持ち、バランスよく理解することが第二の目標である。

・到達目標（SBO）

1. 心理学の領域を知る。
2. こころのありようを考えるを通し、人間理解の多様性について学ぶ。
3. 個人と他者、個人と集団の相互作用について、理解する。
4. 自分の「こころ」への興味関心を高め、理解を深める。

・講義日程

(矢) 東 101 1-A 講義室

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 講義内容 |
|------|----|----|--------|----------|-----------------|
| 9/12 | 金 | 1 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | イントロダクション：心理学とは |

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 講義内容 |
|-------|----|----|--------|----------|--------------------------|
| 9/19 | 金 | 1 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 心理学の歴史 心理学でいう「学習」について |
| 9/26 | 金 | 1 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 認知心理学-特に記憶について |
| 10/3 | 金 | 1 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 短期記憶と長期記憶 社会的認知 |
| 10/24 | 金 | 1 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 社会心理学の視点から「集団」を考える |
| 10/31 | 金 | 1 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 臨床心理学の基礎 |
| 11/7 | 金 | 1 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 臨床心理学的支援の実際 |
| 11/14 | 金 | 1 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | パーソナリティの理解 |
| 11/21 | 金 | 1 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 家族の心理学 |
| 11/28 | 金 | 1 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 働くことの心理学 |
| 12/5 | 金 | 1 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 対人関係の心理学 |
| 12/12 | 金 | 1 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 恋愛の心理学 |
| 12/19 | 金 | 1 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 犯罪行動の心理学 |
| 1/9 | 金 | 1 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 思春期青年期の理解、まとめ |

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

| | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|-------------|--------|------|------|
| 教 | 図説心理学入門 第2版 | 齊藤勇（編） | 誠信書房 | 2005 |

・成績評価方法

試験の成績を60%、出席・受講態度を20%、レポート課題20%として評価する。

・特記事項・その他

予習・復習のポイント

授業において次週の内容として示された箇所を、教科書を中心に予習をすること。

復習については、ノートを中心に、興味がある箇所は図書館の文献などで調べること。

授業で紹介する書籍や論文、DVDなどは、心理学分野研究室にもそろっていますので、積極的に研究室を訪問してください。

また日頃から、自分の思考、感情、行動、身体反応の動きや変化に、注目して過ごすよう心がけてください。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的 |
|------|---|----|------------|
| 講義 | ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A) | 1 | 講義資料の提示 |
| 講義 | プロジェクター | 1 | 講義資料・教材の提示 |
| 講義 | DVD(BR)プレーヤー | 1 | 教材の提示 |
| 講義 | 書画カメラ | 1 | 教材の提示 |
| 講義 | デスクトップ PC (iMac21.5 ZOMP CTO Education) | 1 | 講義資料の作成 |